

東京湾再生官-民連携フォーラム 令和5年度事業計画・予算

令和5年度事業計画

令和5年4月より東京湾再生のための行動計画（第三期）が開始となる。東京湾再生官民連携フォーラム活動は、第二期の反省と実績を踏まえて、第三期計画においてもさらに活動が期待されている。

令和5年度においては、第三期の目標達成に寄与するため、背後住民のより幅広い年代層に東京湾再生活動を具体的に知ってもらうきっかけづくりを一步進め、点と点を結び線になるように連携を図り、お互いの顔が見えるよう東京湾再生活動の理解協力に取り組み、調査研究を積み重ねていきたい。また、急速に変化する社会、自然環境への対応を見すえていきたい。

令和5年度の取組ポイントは、以下の通り。

- (1) 東京湾再生のための行動計画（第三期）に伴う取り組みの検討と実行
- (2) フォーラムの広報・普及活動の強化
- (3) 感謝祭 PT のミッション終了に伴う「統一テーマでの活動」の新たな展開
- (4) 東京湾をめぐる脱炭素、気候変動など社会・自然課題解決にむけたチャレンジ

I. 令和5年度活動内容

1. 情報（提供・仲介）の受発信・交流（広報）

1) 第三期開始に対応した情報発信や交流

第三期 東京湾再生のための行動計画が、2023年4月よりスタートする。令和4年（2021年）3月に第三期計画への政策提案をしており、フォーラムは、この目標実現のため役割を果たしていく。

2) 広報・普及活動の見直し・強化による新体制づくり

東京湾再生行動計画（第三期）に副題が掲げられ、背後圏への配慮がより重要になった。新しく広報・普及活動の見直しを図り、フォーラム活動全体にわたる広報・普及に取り組む。広報・普及のための新しい組織を編成し、より多くの市民、生活者への再生活動への理解促進を図り、情報交流の拡大に繋げていく。

会員を含めた横の連携を強め、統合的な広報・普及活動を目指し、さらに深くできるような情報交流活動につなげていく。ファミリー層を中心に感謝祭参加者、ボランティア、大学生、高校生、子供たちなどの世代を通して意見を集約していく機会を増やし、東京湾に対する意識調査・研究情報発信などを通して情報交流を図っていく。

3) 新体制による東京湾感謝祭2023（仮称）の実施

フォーラム活動の結節点として定着した東京湾大感謝祭は、東京湾に目を向けてくれるひとつのきっかけ作りとなった。第二期の実績や反省を踏まえ、より持続的でより広範な参加交流

を目指し、財源の安定化の維持のための仕組みづくり、さらに若手人財の育成を図る。フォーラムの広報・普及活動の柱としてのイベントの実現に取り組んでいく。

4) 「活動の環の拡大」(第三期行動計画) に対応した情報交流活動

第三期を迎え今後はさらに多くの人に東京湾の再生活動を理解していただくための活動を行う。計画目標の副題「～流域 3,000 万人の心を豊かにする「東京湾」の創出～」にあるより多くの市民を対象を広げた交流機会の創出が求められている。そして、①豊かな水環境の実現、②楽しく、親しみやすい東京湾の創出、③活動の環(わ)の拡大、がポイントとして示されている。特に、新しく提示された「③活動の環(わ)の拡大」を意識して、海と河川などとのつなぎの役割と機能するような機会の創出を図っていく。

5) 東京湾を体験する場の提供

創造力を養う自然・文化の直接体験の場づくりを行い、東京湾循環環境教育を図っていく。ミニスタンプラリーまたはウェブ利用による方法などを検討し、新しい交流の場づくりを試みる。

スタンプラリーは、過去に東京湾の窓 PT で実績があることから、さらに環境学習や体験活動に結び付けたラリープログラムを検討する。NPO 等の活動に対して、東京湾にそそぐ川との橋渡しとして、NPO 同士の交流または沿岸域での組織・団体の活動交流を図る。

6) HP や特設ウェブサイトでのコンテンツの蓄積やメール配信による継続的な広報・普及活動の実施

会員、PT 活動によるコンテンツ、東京湾感謝祭 2023(仮称)の出展コンテンツなどの活用を検討し、継続的なフォーラムの広報・普及活動につなげていく。情報の提供の仕方を工夫して、会員ポータルサイトの機能の役割の充実を図る。また、東京湾に注目、意識していただいた方などを対象に東京湾の多様性と様々な東京環の多様性を紹介していく。

同時に HP、YouTube での「東京湾の日・みんなで再生」動画の掲出継続、「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」との企画連携やコンテンツ情報に関するシナジーを図り、第三期に対応した分野の充実を図り、PT 相互間のコミュニケーションサイトとして機能を高めていく。

会員を繋ぐ「東京湾-News Letter」の配信を年間 50 通の配信を目指す。

7) フォーラム活動の行動計画(第二期)の記録冊子の活用

第二期計画からのフォーラム活動を紹介した記録冊子を、PR 資料に活用していく。冊子そのものは、価格設定は行わないが、会員及び新規会員からの寄付の促進として冊子を交換するなど寄附の方法を試みる。

2. 交流・連携活動

1) 再生推進会議との一層の連携

○東京湾再生推進会議とフォーラムの連携のキャッチボールを継続して実施する。

PT など政策提案者へ情報提供(フィードバック)し、ともに実現方策を検討するといったフォ

ローアップの仕組みを今後検討する。例えば、東京湾スクラム・ミーティングと称するキャッチボールができる場を作り出していく。

○分野横断的で現場実証的な取り組みを官民で試みる事例づくり

例えば、生き物生息場づくりPTでは、官民連携によりマコガレイの産卵場の実証・検証などを行いつつ、議論を進めている。他のPTや一時的なイベントにおいてなど、第2、第3のダッシュ海岸のような試行を図っていく。

○国交省「海とみなとの相談窓口」、海上保安庁「海の相談室」の活用・連携・交流

国交省は、フリーダイヤル：0120-497370を設置し、海やみなとでの自然再生、海での自然体験・環境学習の相談を受け付けている。また、海上保安庁が「海の相談室」045-211-1118（内線：2511）潮汐・海水温情報の入手が可能など）を設けている。

こうした窓口寄せられた東京湾再生につながる情報を官民で共有し連携につなげる。

2) クリーンアップ東京湾 海ごみ、プラゴミ・ストップ 2023

多数の人が集合するリアルなクリーンアップのイベント活動は、コロナ禍による制約が大きかったため、活動の復活に向け会員の活動支援、その周辺活動に取り組む。

「クリーンアップ東京湾 海ごみ、プラゴミ・ストップ 2023」を進め、「東京湾の日」活動のひとつとして、市民が意識して参加できる身近な活動を支援する。会員への告知活動から東京湾周辺生活者のつながりへと広げていく。

協力、後援、連携組織のパートナーの創出を目標に、河川をフィールドとした会員の清掃活動や河川流域のエリアを中心に活動しているNPOとの結びつき、働きかけを強めていく。森川里海のむすび付き強化に向けて、みんなの東京湾みんなで再生リーフレットなどを通して連携を図る。

3) 表彰制度の検討

東京湾をフィールドとして活動している企業、団体・組織、個人の方々に対して、市民目線からみた表彰、称賛方法・顕彰制度を検討する。

4) 「東京湾の日」の交流活動

東京湾の多様性や大都市を支えている東京湾への理解促進を図る。首都圏、東京湾背後圏に住む約3,000万人の生活者が、東京湾に気づき、東京湾の恵みを暮らしの中で意識できる「東京湾の日・10月1日」となるような活動を推進する。この日と連動して川柳&photoコンテストの募集を全国規模で行い、東京湾だけではなく大阪、伊勢、広島湾など生活に密着した湾との情報交流を図ることで各地の湾に対する意識の向上に努めていく。

・東京湾感謝祭 2023（仮称）との連携

・「東京湾の日」の浸透を図るため、ポスター、チラシによるPRの実施。およびパネル展示の実施。

・第3回 川柳&photoコンテストの実施。

東京湾の持つ自然の魅力、生き物・生命が持つ魅力を東京湾の日のにのせて醸成していく。

(川柳&photo コンテストの第1回応募者数：川柳部門 244 点、第2回 549 点、photo 部門第1回 34 点、第2回 39 点)

5) CSR-NPO 未来交流会の実施

NPO と企業間の交流実績を高めるとともに、業界間の垣根を越えた交流を行い、参加組織団体への情報フォローや具体的な相談など受け入れ活動を推進する。CSR テーマは幅広く、海ごみ、プラゴミ・ストップ対策を中心に、地球環境、気候変動、自然資源の保全や活用、持続可能な開発目標 (SDGs) なども視野に入れて、今後活発な議論の呼び水としていく。引き続き、一般財団法人 セブン-イレブン記念財団、経団連自然協議会さまの支援を受け交流活動を実施する。

・令和5年度は10月実施予定(案)(東京湾感謝祭2023(仮称)との連携を図る)

■ 令和5年度 CSR-NPO 未来交流会(案)

(1) 開催日時：令和5年10月 13:00~16:30

(2) 開催場所：交流会場

(3) 参加目標：フォーラム会員 + 非会員：企業、NPO等45団体

(4) 交流会プログラム企画(案)

・東京湾の未来・カーボンニュートラルポート(CNP)の形成とNPOの活動

・東京湾再生行動計画(第3期)について

相互交流情報交換：今までの経験と反省を踏まえ、交流会開催の工夫を図る。

ZOOM 利用によりハイブリッド方法により場所を選ばず参加できる工夫を行う。

3. フォーラム会員

個人会員 500 名、団体会員 150 組織の会員を目指す

会員は、(2022.12/30 時点) 団体会員：135 団体、個人会員：348 人、の構成で、徐々にではあるが増加している。最近では、環小学生の直接会員加入もあり、ファミリー層への浸透をより一層進めていく。河川流域等で活動している NPO 等の加入を促進する。

会員においては、生き物の保全、海ごみ・プラごみの清掃活動などへの参加をしやすいするための情報提供や、環境省の「地域循環共生圏づくり」・SDGs 活動等の組織活動の情報提供など、質の高い関連団体の参加促進を図る。

4. 政策提案

フォーラムの諸活動により得られた東京湾再生への検討成果・課題等を取りまとめ、東京湾再生推進会議への具体的な取組や改善策等の提案を目指す。令和5年度は、PT 活動の成果等をベースに政策提案の役割を果たしていく。今年度は、生き物生息場 PT が政策提案を検討している。

5. 統一テーマでの活動

東京湾は貴重な環境資源であり、流域住民の生活 環境、文化、産業の豊かさと多様性を支

えている。生活者のライフスタイルの変革が迫られる中、「新しい東京湾」を模索・検討を図る意味で、フォーラム諸活動を統一する結節点として、東京湾感謝祭 2023（仮称）、および、「東京湾の日」を実施する。

① 東京湾感謝祭 2023（仮称）の実施

新たな組織体制による東京湾感謝祭 2023（仮称）をサポートしていく。

2023年度は5千人の参加者を想定する。

② 「東京湾の日」の実施

東京湾の理解促進のためとなる「東京湾の日」を広く広報し実施してゆく。東京湾再生アンバサダーの役割を検討し、「東京湾の日」と連動できるガイド役、身近で親しみのある方への協力の検討を図る。

6. 調査研究（PT 活動へのサポート）

今年度から第三期の東京湾再生行動計画がスタートする。これにともない、第三期の目標や社会・自然課題の解決に向けた PT 活動（イベント型活動及び調査研究型活動）に協力し、サポートする。

新分野、例えば、①脱炭素活動 ②海洋汚染対策活動、③ご当地の東京湾関連環境保全などに取り組むNPOなどを支援し、新たなPTの設立を後押しする。

各PTが主体的に推進できるようフォーラム事務局では、縁の下のサポートを実施している。

PTのみでは手が足りない具体的活動への協力支援を図る。

- ①新体制での「東京湾感謝祭 2023（仮称）」の運営サポート。「東京湾の日」の認知普及の実施。
 - ②「指標活用PT」による、フォーラムHP利用しての関連他団体へのアンケート収集のサポート。
 - ③江戸前勉強会の支援
「モニタリングPT」関連の「江戸前勉強会」について引き続き共催支援。
 - ④「東京湾窓PT」の成果であるFacebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」を引き続き支援。環境学習機能のある20施設の参加促進。
Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」
<https://www.facebook.com/groups/tokyowaninfo/>
- また、都民、市民に対して施設からの「学習機会の提供」などをサポート。
- ⑤「多摩川河口干潟ワイズユースPT」の観察会、周辺企業とのコラボレーションを進めている。
東京湾と河川を結ぶ交流活動のサポートを行う。
 - ⑥通信、オンラインやウェブの活用における共通課題・個人情報の保護・著作権等への配慮・権利保護など、PT活動における運用面等へのアドバイスやサポート。
 - ⑦PTへの関連する情報提供の実施。PTメンバーの募集支援など

7. 事業化、スポンサーの獲得について

「統一テーマによる行動」としての感謝祭等イベント実施を支援していただくために、企業支援組織等からのスポンサーの獲得を目指す。企業からの賛同を得やすい工夫を行い、事業

推進を図る。また東京湾再生のための寄附等の協力呼びかけを実施する。

令和4年度に発行したフォーラム冊子「東京湾への未来 2013-2032」を使い会員からの寄付を募り、また、新体制となる東京湾感謝祭 2023（仮称）の実施と合わせて、事業継続を図る基金の創設や運用方法を検討し、協力していく。

8. 他団体との連携

国連生物多様性10年日本委員会、経団連自然保護協議会、(環境省)「プラスチック・スマート」キャンペーンの参加協力など、様々な団体との連携を引き続き行う。さらに「環境省ローカルSDGs(地域循環共生圏)実践地域等登録」により、参加団体 企業とのシナジーを図る。コロナ禍で休止していたシンポジウム・企業とNGOとの交流会などの復活開催へ参加する。関連各組織団体と連携したフォーラム活動を推進し、地球環境全体の取り組みと繋がった東京湾の水環境の改善、生き物保全の活動を検討する。

東京湾岸の各自治体では、それぞれ独自の港まつりを実施している。各地域への展示出展等を計画検討する。対面交流ができる機会にフォーラム会員が利用できるブース出展等を計画し、交流の機会を増やしていく。

9. 後援・協賛等の連携

会員や関連団体の実施するイベントや講演会に対し、フォーラムの「後援・協賛」を実施する。「西なぎさ発:東京里海エイド」(D E X T E - K主催)「東京湾シンポジウム」(国総研主催)、さらに、「クリーンアップ 東京湾 海ごみ、プラゴミ・ストップ活動」への後援・協賛をおこなう。また、例年実施されている東京湾環境一斉調査と合わせ、同時に行われる生きもの調査の実施への支援・協力・共催を図っていく。

10. 相談窓口(コンサルティング)

関連市民活動からの相談を受付、ふさわしい相談先 PT や官の窓口を紹介するなどの努力をする。CSR-NPO 交流会で巡り合った新しい組織団体などからの相談の窓口となる。

P T 活動中の自然環境調査における届け出文書などの共通化やひな形の提示などの支援を行う。

11. 啓発・人材育成

各P Tの啓発・人事育成の支援に取り組む。特に、PTが独自に必要な資金を獲得できるように、助成金申請のノウハウや知りえた助成申請情報等の紹介・周知を行う。

12. その他

新型コロナウイルスへの対応が変化してきているが、今後も Zoom 活用など柔軟な対応を図る。そのためネットを利用しての通信環境や必要ソフトウェアを整備していく。また PT 活動、会員相互のコミュニケーション促進へ支援を行う。

II. 令和5年度スケジュール

年間スケジュール予定

年 月	項 目
2023年 4月	東京湾 photo/川柳コンテスト用 チラシポスター検討
	広報コミュニケーション活動戦略の検討
	第三期計画の確認及び目標値の設定検討
5月	R5 第1回企画運営委員会開催 2023.
	大学等社会連携の検討
	東京湾感謝祭 2023（仮称）会議 運営・サポート
6月	東京湾の日チラシ/ポスター作成
	東京湾 phot/川柳コンテスト募集期間 6/1(木)-8/31(木)
	指標データ収集協力(PT 活動)
	東京湾感謝祭 2023（仮称） 運営・サポート
7月	みんなの東京湾みんなで再生チラシ
	R5 第2回企画運営委員会開催 2023.
	東京湾感謝祭 2023（仮称）会議 運営・サポート
8月	東京湾の日チラシ/ポスター配布
	西なぎさ発：東京里海エイド クリーンアップサポート活動
	東京湾環境一斉調査（PT 活動） CSR-NPO 未来交流会 作成
	東京湾感謝祭 2023（仮称）運営・サポート
9月	R5 第3回企画運営委員会開催 2023.
	川柳 photo コンテスト 審査決定
	交流会プログラム2 森山川里版
	西なぎさ発：東京里海エイド クリーンアップサポート活動
	東京湾感謝祭 2023（仮称）会議 運営・サポート
CSR-NPO 未来交流会 チラシ配布	
10月	フォーラム総会開催 2023.10
	東京湾感謝祭 2023（仮称）開催
	CSR-NPO 未来交流会実施
11月	東京湾感謝祭 2023（仮称）結果報告
	葛西海浜公園西なぎさ クリーンアップサポート活動
12月	次年度計画、今年度事業報告書の作成
	マコガレ調査(PT 活動)
	第三期計画の確認
2024年 1月	会員募集活動 東京湾感謝祭 2024（仮称）会議
2月	事業報告書の作成
3月	R5 第4回企画運営委員会開催 2023. PT長 2023 会議、

東京湾再生官民連携フォーラム令和5年度予算

フォーラム活動予算内訳

作成：令和5年2月22日

収入の部		科目	予算額(円)	単価	数量	備考				
		寄付金収入	100,000	×	1	見込み				
		助成金収入	3,999,932	×	1	セブン-イレブン記念財団				
		雑収入	繰越金	×	1	今後決算				
			普通利息	0	×	1				
			その他	0	×	1				
		収入金額	4,099,932							
支出の部		一般財団法人セブン・イレブン記念財団助成内訳	事務局	給与	2,400,000	200,000	×	12	人件費・事務局員1人	
				通信費	200,000		×	1	Zoom一式含む	
				備品費/消耗品費	85,287		×	1	封筒	
				広報活動費	102,960	8,580	×	12	メール配信システムサーバー	
				旅費交通費	29,684		×	1	おもに現地打合せ	
				賃借料	165,000	165,000	×	1	会議、交流会 会場費用(企画運営委員会など)	
							×	1		
		事務局経費計 (1)			2,982,931					
				東京湾再生官民連携フォーラム	謝金	30,000	10,000	×	3	交流会等
					広報活動費	678,161		×	1	東京湾の日PR(川柳などコンテスト)、交流会等
					賃借料	165,000	165,000	×	1	会議、交流会 会場費用(企画運営委員会など)
					旅費交通費	11,744		×	1	会議等現地打合せ
					通信費	110,743		×	1	交流会、パネル送料など
					備品費/消耗品費	21,353		×	1	交流会封筒など
フォーラム活動費計 (2)			1,017,001							
支出金額(A)			3,999,932							



東京湾再生官民連携フォーラム



東京湾の未来 2013-2032

広告スポンサー

東亜建設工業

東洋建設

五洋建設

日本海工(株)

東京湾の魅力をみなさまに

東京湾再生アンバサダー

榎 太一 アナウンサー

ガリガリ君 赤城乳業(株)